

《担当者名》工藤禎子 [cxm02601@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

ライフサイクルや健康課題、地域の特性に応じた個人・集団・コミュニティにおける看護活動に関して、研究的視点とエビデンスを追求する。また、支援システムを開発する力の向上をめざし、文献講読、活動場面への参加観察と記述、既存資料や記述の分析、報告やディスカッションを実践的に行いながら学びの基盤を構築する。

【学修目標】

- 1) ライフサイクルや健康課題、地域の特性に応じた個人・集団・コミュニティにおける看護活動に関して、研究的視点とエビデンスを説明できる。
- 2) 自身のテーマに関する地域の健康課題と支援システムの開発方法を述べられる。
- 3) 文献講読、活動場面への参加観察と記述、既存資料や記述の分析が行える。
- 4) 分かりやすい報告（資料作成）やテーマに沿ったディスカッションを行える。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	地域における個人と家族のアセスメント、支援、評価	1. 地域における個人と家族のアセスメントの目標 2. 地域における個人と家族のアセスメントの方法 3. 地域における個人と家族のアセスメントから支援へ 4. 地域における個人と家族の支援における看護職の役割 5. 地域における個人と家族の支援の評価	工藤
6) 10	地域における住民と看護職のパートナーシップの方法	1. パートナーシップモデルとは何か 2. パートナーシップモデルを用いる背景と意義 3. 地域における住民とは 4. 住民と看護職のパートナーシップの方法 5. パートナーシップモデルによる活動展開例	工藤
11) 15	集団のアセスメント、支援、評価	1. 地域における集団のアセスメントの目標 2. 地域における集団のアセスメントの方法 3. 地域における集団のアセスメントから支援へ 4. 地域における集団への支援における看護職の役割 5. 地域における集団の支援の評価	工藤

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（見やすい資料・わかりやすい説明）40%、参加状況（準備・質疑）30%、レポート30%により、総合的に評価する。

【教科書】

適宜、文献を紹介する。

【参考書】

1. 日本地域看護学会誌
2. 日本在宅ケア学会誌
3. 日本公衆衛生看護学会誌
4. 看護研究
5. 保健師ジャーナル
6. Public Health Nursing 等の学会誌及び専門誌

【学修の準備】

- ・文献，情報の検索，収集，整理
- ・読解とポイントの整理
- ・見やすく分かりやすい資料の作成，プレゼンの練習